

◎ 1 学年の実践「ネパールのビール」 主題名：よりよく生きる喜び

授業者：後藤正

筆者がネパールのある村に滞在していたとき、チェトリという少年と出会う。そのチェトリの「ビールを買いに行く」という言葉に甘え、ビール欲しさに大金を渡す。ところがチェトリは一向に戻ってこない。事故ではないかと考える反面、大金をもって逃げ出したのかと考えてしまう筆者。しかし、チェトリは戻ってくる。全体を通して、人間がもつ心の弱さや醜さ、気高さが描かれている。

生徒の感想（一部抜粋） 「誇りある生き方」とは？

- ・人を信じること。人のために行動すること。
- ・自分以外の人のことを考えられる。
- ・人のために働く生き方。
- ・自分が間違っただけでなくても間違いを直せること。
- ・人の意見に左右されず、人のことをすぐに疑わずに信じる。自分の意志や意見を貫けるような生き方。人のために動けるような生き方。
- ・やろうとしていることの結末をある程度予想してから行動に移す。
- ・人として当たり前のできる行動ができる。
- ・自分の行動に責任をもち、人を信じて人に信じてもらえるような人になる。
- ・欲望に負けず、真っ直ぐに生きる。
- ・約束を守る生き方。
- ・自分が後悔せず、自分を信じて生きること。

◎ 2 学年の実践「ワン・ステップ」 主題名：向上心、個性の伸長

授業者：和泉

小学校の4年生 に父を亡くした俊樹は、母と兄の3人で暮らしていた。しかし、この春、兄が大学に進学してからは、母との2人暮らしとなっていた。母とは上手くいかず、何か話をしてもうすぐに口げんかになってしまうのだった。そんな時、友達の孝と話しているときに、孝も自分と同じように家庭の事情で苦しんでいることを知った。しかし、孝は前向きに自分のことに取り組んでいた。そんな姿と、兄の残した言葉が俊樹の心を悩ませていた。

生徒の感想（一部抜粋）

- ・自分に甘くしてしまうことが多いから、自分に厳しくしたいなと思うようになりました。
- ・自分のことだけ考えずに、周りのことも考えて生きる！
- ・なりたい自分になるために、継続することが大切だと思った。あきらめないことが大切。変わろうと思わないと変わらない。
- ・自分も中途半端なこともあるので自分を見直したい。
- ・小さなことでも1つ1つ積み重ねれば自分につながる。

◎ 3 学年の実践「いつかは言いたい二度目のごめん」 主題名：よりよく生きる喜び

授業者：星

主人公は中学生の時に、友だちからの誘いを断れずに、友だちの優子に対する無視に加担してしまった。その時のことが頭の片隅にありながら30年の月日が過ぎた。子どもも生まれ、中学生になり、いじめのニュースが流れる度に、自分自身の過去の過ちを思い出す。ようやく勇気を出して優子に連絡をとって謝ることを決心した。

生徒の感想（一部抜粋）

- ・みんなに優しくしていても、誰かにとって嫌なことをしてしまうときはあるから、そのときにすぐ謝ったり、素直になったりできるようにしたい。
- ・相手の気持ちに敏感に生きていきたいと思った。
- ・いじめの被害者の傷は謝罪では良くならないかもしれない。これからの自分の行動に気をつけていきたいと思った。
- ・これから先、どんな人に会ってどんな関係になるかわからないが、うまく付き合えるよう自分の中で考えて行動したい。
- ・いじめをして良いことは一つもない、した側もされた側も嫌な気持ちになると思った。
- ・普段から友人を大切にしたいと思った。
- ・「いじめ」の難しくもはっきりとした基準は被害者の気持ちなのかなと思った。
- ・いじめを他人事にせず、向き合っていきたいと思った。
- ・その時の行動や言葉一つで、人の運命を変えてしまうと思った。これからの行動、言動に気をつけていきたい。
- ・自分の大切な友だちは自分で守りたいと思った。

